

フィデリティ退職・ 投資教育研究所 レポート

50代シングルズ、7割が老後資産不足
サラリーマン1万人アンケートにみる50代シングルズの
退職準備度合い

2013年8月



50代シングルス、7割が老後資産不足

「サラリーマン1万人アンケート」にみる50代シングルズの退職準備度合い

ポイント

1. 男性の生涯未婚率が20%台に乗せたことが注目されたが、50代で配偶者のいない人—「シングルス」は男女合わせて359.2万人、年代人口の22%に達している。うち男性は189.3万人でその7割が未婚者、女性は169.9万人でその6割が既婚だが配偶者に死別・離別している。4月実施のサラリーマン1万人アンケートでも25.5%に上った50代の回答者のシングルスの実態をまとめた。
2. 特に女性50代シングルズの退職後の生活に大きな懸念が残る内容となった。

【50代女性シングルス】

平均年収397.4万円で年収300万円以下が38.6%に達する。金融資産は相対的に多く1219.0万円あるが、退職後の生活用として準備しているのは938.2万円。退職後の生活費不足を懸念する人が過半数を超え、医療費の負担と意外に家賃負担を心配する声が多い。そのため、老後のイメージは「ほそぼそ・質素」が多い。老後のために2911.7万円(公的年金を除く)が必要と考えているが、準備できている金額は938.2万円と3分の1にとどまる。また71.5%がその金額を準備できないと考えている。資産形成の手段として、預貯金を挙げるのが50.1%に達し、資産運用を挙げるのはわずか13.9%にとどまっており、準備がなかなか進まない背景だろう。そもそも投資に対する明るいイメージを持っておらず、投資の3原則に対する理解度もかなり低い。最も投資教育が必要なセグメントといえそうだ。

【50代男性シングルス】

平均年収は566.3万円と既婚男性と比べて22.2%低い水準。しかし、保有資産は1423.2万円と既婚者より10.6%多い。老後のイメージは「ほそぼそ・質素」が相対的に多く、退職後の楽しみは旅行より趣味や習い事を挙げ、退職後に人とのつながりを求めている様子が窺える。50代になって急速に退職後の生活費不足を懸念するようになり、医療費と家賃への心配が高まる。退職後の生活に必要な資金(公的年金を除く)は3552.8万円だが、現在準備できているのは1202.4万円で3分の1の水準。準備資金0円が28.4%いる一方で3000万円以上も12.1%おり、格差が広がっている。必要額が準備できないと思っているのは71.3%に達しているが、資産運用で何とかしようと考えている人の比率は27.6%と高い。

目次

1. 50代シングルスの実情—年収の低さが際立つ
 - 生涯未婚率、男性で20%台、女性で10%台
 - 50代女性シングルスで年収300万円未満が4割弱
 - 50代女性シングルスは年収の3倍以上の資産を保有
2. 退職後のイメージ—既婚者よりも暗いイメージ、募る懸念
 - シングルスは老後のイメージは相対的に暗い
 - 女性シングルスは特に老後の資金不足を懸念
 - 医療費、税金・社会保障が大きな支出項目
 - 30、40代女性シングルスは退職後の生活を描けていない
3. 退職後の生活資金の準備状況—50代女性シングルスは準備遅れは深刻
 - シングルス、年金以外は貯蓄の取り崩しに依存
 - 既婚者もシングルスも変わらない必要額、3000万円
 - 50代で目標額に達しているのは1割弱
 - 退職準備率でみると男性シングルスも課題あり
 - 女性シングルスは7割は準備できないとあきらめ
 - 女性シングルス、預貯金で資産形成を想定
4. 投資の現状—退職後の資産形成以外の投資が主流
 - 女性シングルスは投資に明るいイメージが不足
 - 女性シングルス、投資の目的は老後の資産形成以外
 - 40代、50代の女性、毎月分配型を保有
 - 女性シングルス、投資リテラシーの向上が重要

＜アンケート調査の概要＞

- 調査対象者:会社員、公務員など
- 調査地域:全国
- 調査方法:インターネット調査
- 調査期間:2013年4月5日(金)～12日(金)の8日間
- 配信パネル数:66,332件
- 本調査回収サンプルサイズ: 11,507サンプル
- サンプル構成

	全体		男				女				
	人数	人数	既婚		未婚/既婚(配偶者無し)		人数	既婚		未婚/既婚(配偶者無し)	
			人数	%	人数	%		人数	%	人数	%
全体	11,507	7,436	4,705	63.3	2,731	36.7	4,071	1,532	37.6	2,539	62.4
20代	2,460	1,381	347	25.1	1,034	74.9	1,079	196	18.2	883	81.8
30代	3,186	2,059	1,210	58.8	849	41.2	1,127	445	39.5	682	60.5
40代	2,749	1,857	1,350	72.7	507	27.3	892	371	41.6	521	58.4
50代	3,112	2,139	1,798	84.1	341	15.9	973	520	53.4	453	46.6
首都圏	3,232	2,115	1,275	60.3	840	39.7	1,117	397	35.5	720	64.5
東海	1,342	881	565	64.1	316	35.9	461	196	42.5	265	57.5
近畿	1,921	1,215	786	64.7	429	35.3	706	245	34.7	461	65.3
福岡	611	376	264	70.2	112	29.8	235	89	37.9	146	62.1
その他	4,401	2,849	1,815	63.7	1,034	36.3	1,552	605	39.0	947	61.0
年収 300 万円未満	2,889	1,008	310	30.8	698	69.2	1,881	646	34.3	1,235	65.7
300-500 万円未満	3,967	2,670	1,462	54.8	1,208	45.2	1,297	477	36.8	820	63.2
500-700 万円未満	1,982	1,631	1,235	75.7	396	24.3	351	169	48.1	182	51.9
700-1000 万円未満	1,298	1,163	1,007	86.6	156	13.4	135	80	59.3	55	40.7
1000-1500 万円未満	394	358	315	88.0	43	12.0	36	21	58.3	15	41.7
1500-2000 万円未満	69	58	48	82.8	10	17.2	11	9	81.8	2	18.2
2000 万円以上	46	34	25	73.5	9	26.5	12	7	58.3	5	41.7
不明・答えたくない	862	514	303	58.9	211	41.1	348	123	35.3	225	64.7

1 50代シングルの実情 年収の低さが際立つ

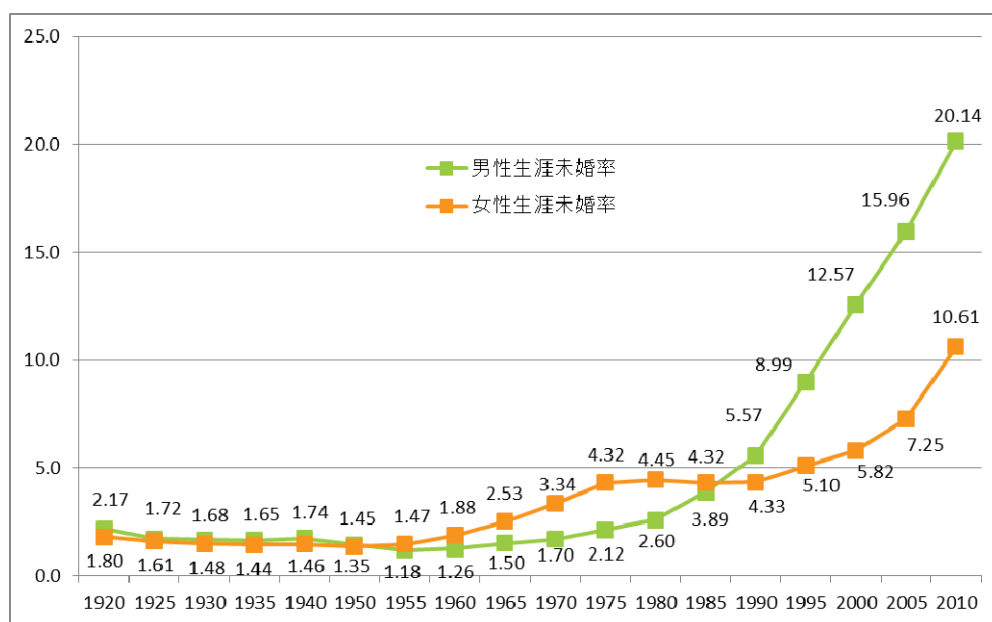
生涯未婚率、男性で20%台、女性で10%台

国立社会保障・人口問題研究所「人口統計資料集」2012年版によると、2010年の生涯未婚率は男性で20.14%、女性で10.61%と初めてそれぞれ20%台、10%台に乗せた(図表1)。生涯未婚率とは、46-50歳の未婚率と50-54歳の未婚率の平均値をとって、50歳時点での「それまでに一度も結婚をしていない人の比率＝未婚率」を算出し、これを以て「生涯結婚しない人の比率」としている。

2010年における配偶関係別の人口数によると、50代男性の未婚者数は128.7万人、50代女性の未婚者数は61.0万人となっている。しかし、未婚者に離別と死別を加えた、いわゆるシングルズ(単独世帯)の人数は、50代で男性189.3万人、世代全体の23.4%、女性169.9万人、同20.7%となる。女性の方が相対的に死別者、離別者が多いため、男性でも、女性でも50歳代でのシングルズは全体の20%強となる(図表2)。

このレポートでは、こうした50代の単独世帯を50代シングルズと呼んで、2013年4月に実施したサラリーマン1万人アンケートの結果から、こうした50代シングルズの退職準備、資産運用の状況をまとめる。なお、サラリーマン1万人アンケートの回答者11,507名のうち、50代は3112名、このうち男性シングルズは341名、女性シングルズは453名で、合計794名、50代全体の25.5%となっている。アンケートの方が女性の比率が高くなっているものの、全体では国勢調査とおおよそ似たシングルズ比率となっている。

図表1 生涯未婚率の推移 (単位 ; %)



(出所) 国立社会保障・人口問題研究所 人口統計資料集「2012年版」よりフィデリティ退職・投資教育研究所作成

図表2 配偶関係別人口 (2010年)

(単位：人)

	年齢	総数(配偶 関係不詳 を含む)	配偶者有	配偶者無			
				未婚	死別	離別	
男	15歳以上総数	53,154,614	31,859,086 59.9%	20,246,682 38.1%	16,639,477 82.2%	1,607,831 7.9%	1,999,374 9.9%
	15-29	10,067,192	1,156,275 11.5%	8,668,824 86.1%	8,619,554 99.4%	1,999 0.0%	47,271 0.5%
	30-49	17,599,477	10,681,015 69.7%	6,507,111 37.0%	5,780,451 88.8%	36,396 0.6%	690,264 10.6%
	50-59	8,097,065	6,070,653 75.0%	1,893,151 23.4%	1,286,541 68.0%	102,698 5.4%	503,912 26.6%
	60-	17,390,880	13,951,143 80.2%	3,177,596 18.3%	952,931 30.0%	1,466,738 46.2%	757,927 23.9%
女	15歳以上総数	57,122,871	31,926,676 55.9%	24,174,365 42.3%	13,090,455 54.2%	7,800,701 32.3%	3,283,209 13.6%
	15-29	9,716,299	1,614,837 16.6%	7,938,857 81.7%	7,819,043 98.5%	4,477 0.1%	115,337 1.5%
	30-49	17,303,350	11,913,949 68.9%	5,097,424 29.5%	3,730,179 73.2%	122,049 2.4%	1,245,196 24.4%
	50-59	8,211,168	6,412,500 78.1%	1,699,114 20.7%	610,073 35.9%	359,585 21.2%	729,456 42.9%
	60-	21,892,054	11,985,390 54.7%	9,438,970 43.1%	931,160 9.9%	7,314,590 77.5%	1,193,220 12.6%

(注)配偶者有、配偶者無の合計は配偶関係不詳を含まないため100%にならない

(出所) 総務省統計局『国勢調査報告』(10月1日現在)よりフィデリティ退職・投資教育研究所作成

50代女性シングلزで年収300万円以下が4割弱

サラリーマン1万人アンケートの回答者を配偶者の有無で分けて年収(個人の年収で家計全体ではない)と家計の金融資産(除く不動産)を比較したのが、図表3、4、5。

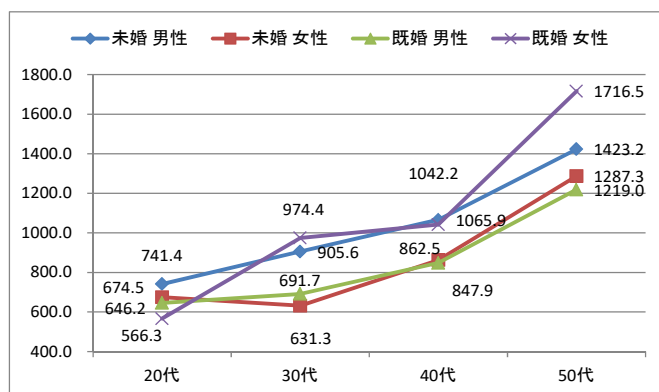
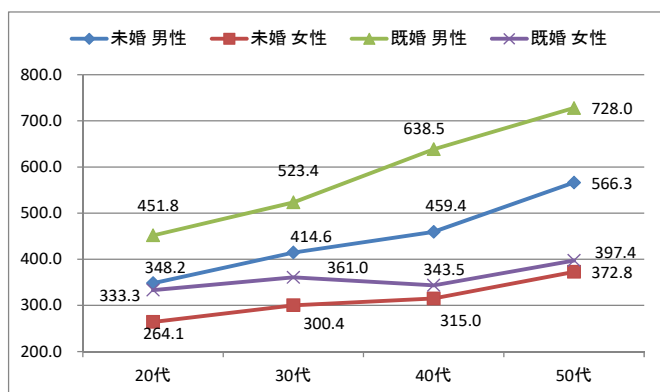
まず、男性の場合には配偶者の有無が年収に大きく影響していることがわかる。日本の報酬体系の中には、配偶者手当など配偶関係によって追加される手当類があり、これが影響している可能性が大きい。このアンケートでも働いている男性の配偶者が専業主婦でこうした手当の対象となっている対象者が多く含まれていると考えられる。たとえば、50代男性の場合、シングلزの平均年収は566.3万円で配偶者がある場合の平均年収728.0万円と比べて77.8%の水準にとどまっている。

一方、女性をみると、平均年収の低さが目に付く。50代でも平均年収が300万円台にとどまっている。特に特徴として挙げられるのが、300万円未満の年収層の多さである。女性シングلزでは50代でも38.6%が該当する。ただ、男性に比べて、配偶者の有無による平均値の格差が小さいのもう一つの特徴だ。女性の場合、配偶者も働いている可能性が高いため、手当の類が支給されておらず、配偶者がいることが女性の年収を引き上げるといった影響を与えていないようだ。ちなみに、50代の女性のシングلزの場合の平均年収は372.8万円で、配偶者のいる女性の平均年収397.4万円の93.8%である。

図表3 年代、性、配偶者の有無別の個人年収と家計資産(除く不動産) (単位：万円)

<個人年収>

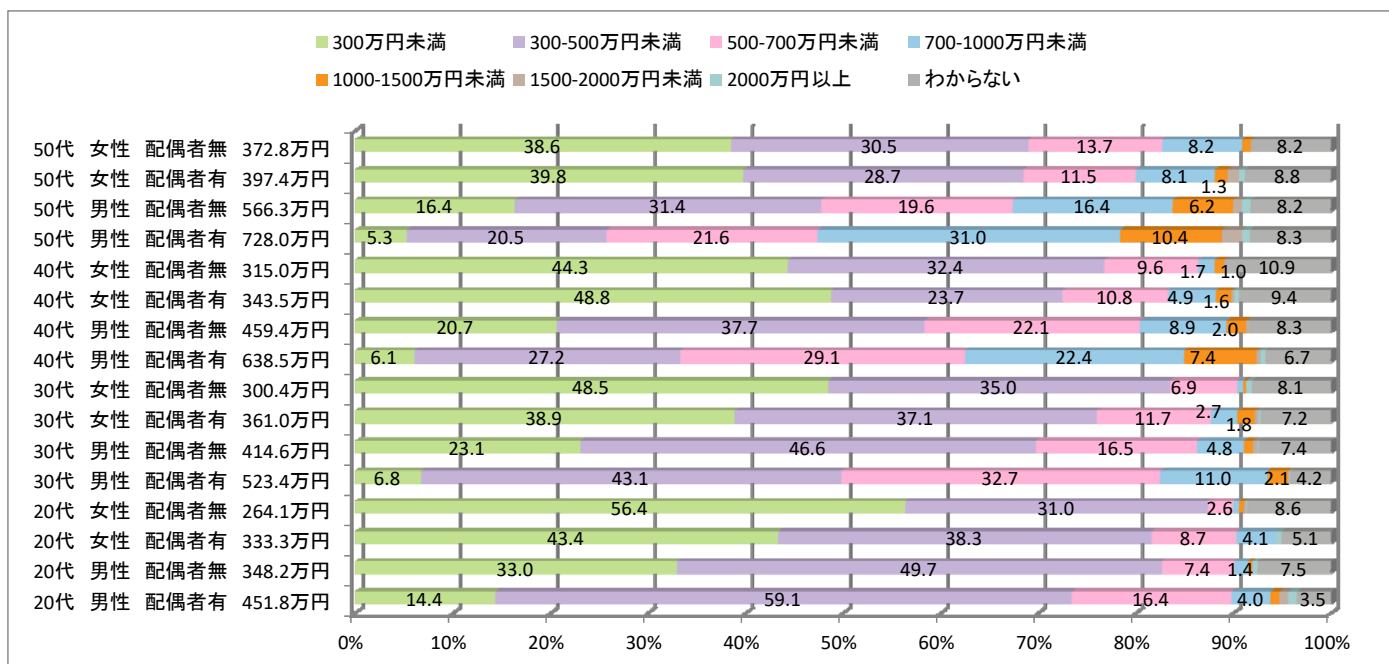
<家計資産>



(注)項目欄の金額は各レンジ中央値を使った平均値。未婚のデータには既婚で配偶者無しを含む。
 (出所)フィデリティ退職・投資教育研究所、サラリーマン1万人アンケート、2013年4月実施より

図表4 年代、性、配偶者の有無別の個人年収

(単位：%)

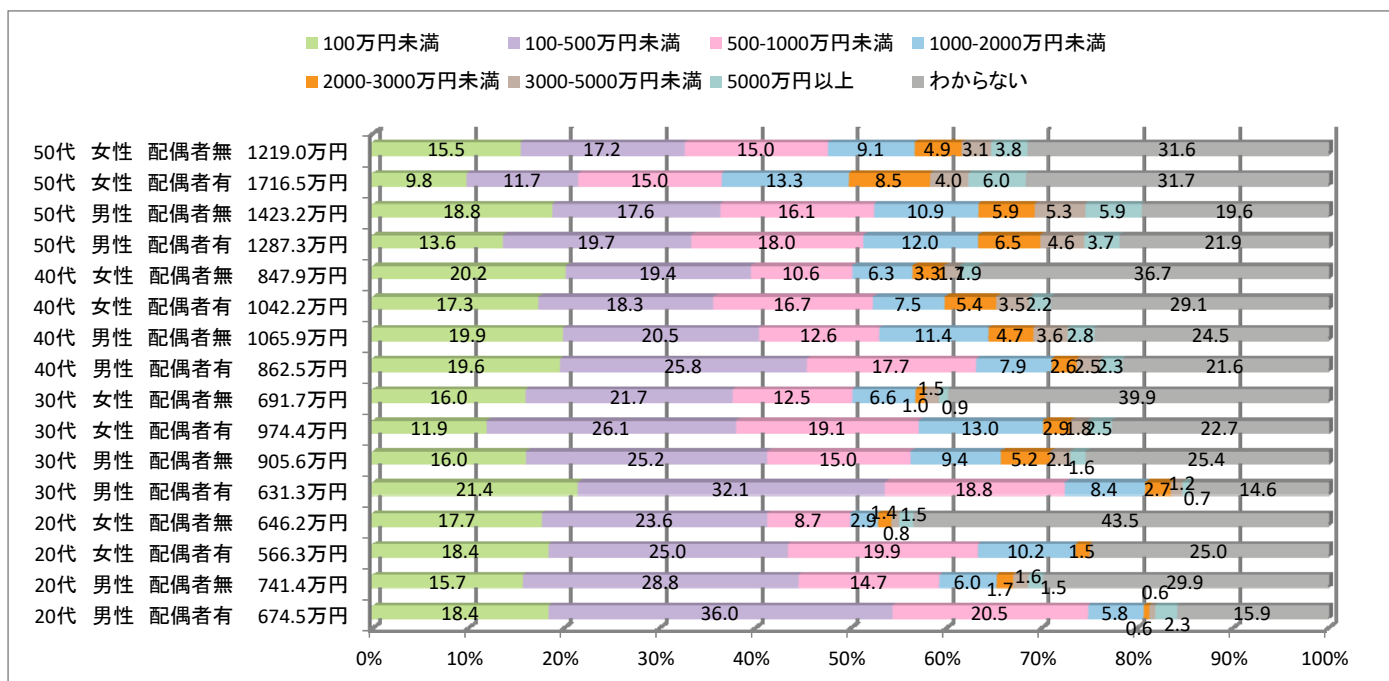


(注)項目欄の金額は各レンジ中央値を使った平均値。グラフ表示で構成比が1.0%未満は削除。わからないには、答えたくないも含む。配偶者無のデータには既婚で配偶者無しを含む。

(出所)フィデリティ退職・投資教育研究所、サラリーマン1万人アンケート、2013年4月実施より

図表5 年代、性、配偶者の有無別の家計資産(除く不動産)

(単位：%)



(注)項目欄の金額は各レンジ中央値を使った平均値。わからないには、答えたくないも含む。配偶者無のデータには既婚で配偶者無しを含む。

(出所)フィデリティ退職・投資教育研究所、サラリーマン1万人アンケート、2013年4月実施より



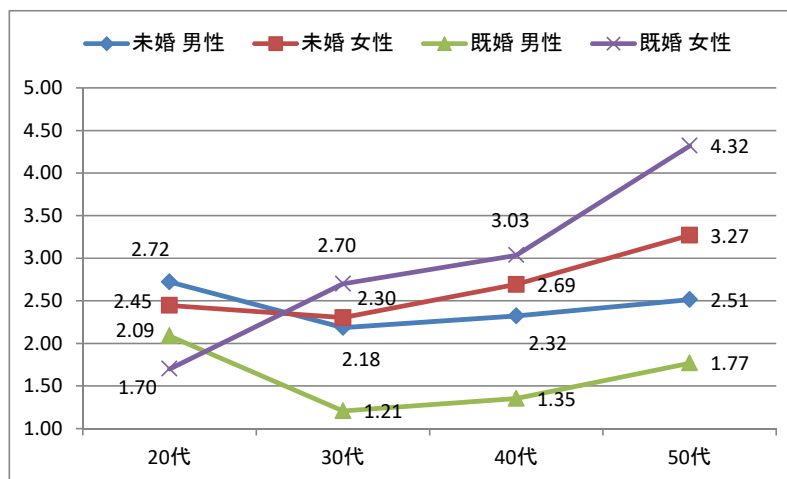
50代女性シングルズは年収の3倍以上の資産を保有

家計の資産に関しては、別の事情が表れている。男性シングルズの場合の平均値は配偶者のいる場合の平均値よりも高くなっている。たとえば、50代男性では、シングルズの平均値は1423.2万円と、配偶者のいる場合の平均値1219.0万円を16.8%上回っている。その格差は20代では1割程度だが、30代で一気に広がり4割以上の差となり、40代で2割以上、50代では上述の通り1割台の差となる。年収で見ると、シングルズの方が低かったが、支出面では配偶者や家族への支出(特に年代別のトレンドをみると教育費の負担)がない分、資産の積み増しが進んでいることがわかる。

女性の資産に関しては、男性とは逆の傾向がみられる。配偶者がいる場合には、家計の資産は夫婦での収入をもとに形成されており、女性1人で作り上げる資産よりも多くなる傾向がある。20代の場合には、配偶者がいる方が資産は少ないが、30代以降では夫婦共働きの効果が強く出ているようだ。ちなみに、30代では配偶者がいる場合の方がシングルズよりも4割資産が多く、40代では2割、50代では4割上回っている。

なお、家計資産を年収比でみたのが図表6だが、年収比が30代を境に上昇に転じていることがわかる。また、配偶者のいる女性の場合、家計資産の年収倍率は4.32倍と突出しているが、夫婦共働きのケースが大半と想定され、1人当たりで換算して資産をみれば2倍台前半に落ち着く。それを前提に、比較してみると、女性シングルズの倍率の高さが注目される。

図表6 家計資産の年収倍率の推移 (単位：倍)



(注)未婚のデータには既婚で配偶者無しを含む。
 (出所)フィデリティ退職・投資教育研究所、サラリーマン1万人アンケート、2013年4月実施より

2 退職後の生活のイメージ 既婚者よりも暗いイメージ、募る懸念

シングルの老後イメージは相対的に暗い

既婚者とシングルズでは、定年退職後の生活のイメージで差が出ている。全般的には、既婚であろうと未婚であろうと、男性だろうと女性であろうと、40%以上は「のんびり・マイペース」を希望していることがわかる(図表7)。

図表7 定年退職後の生活イメージ (その1) (単位：%)

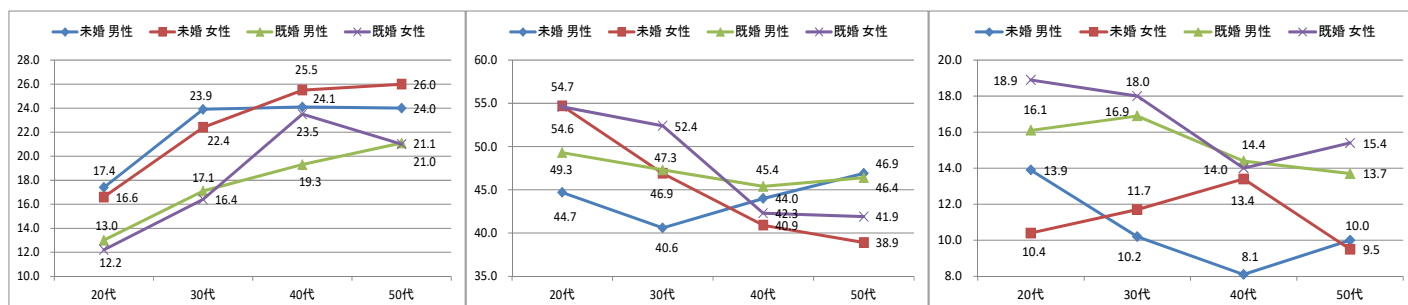
	人数	いきいき・はつらつ	のんびり・マイペース	明るく・楽しい	ほそぼそ・質素	つらく・不安	いずれも該当しない
	11507	7.2	46.0	13.4	20.2	7.9	5.4
未婚男性	2731	5.9	43.6	11.2	21.5	10.6	7.2
未婚女性	2539	6.0	46.9	11.2	21.7	9.1	5.0
既婚男性	4705	7.8	46.6	14.9	19.0	6.5	5.2
既婚女性	1532	9.5	46.7	16.3	19.1	5.0	3.4

(注)未婚には、死別、別離を含む (出所)フィデリティ退職・投資教育研究所、サラリーマン1万人アンケート(2013年4月)

だが、たとえばシングルズでは「明るく・楽しい」、「いきいき・はつらつ」とする比率は総じて低く、逆に「ほそぼそ・質素」、「つらく・不安」はシングルズの方が高いなど、特徴が出ている。また、「のんびり・マイペース」は、女性シングルズで年齢とともにそう考える人の比率が大きく下落していることも注目できる(図表8)。

退職後の生活のイメージでは、シングルズの方が総じて暗い印象を持っているようだ。

図表8 定年退職後の生活イメージ (その2) (単位：%)
 <ほそぼそ・質素> <のんびり・マイペース> <明るく・楽しい>



(注)未婚には、死別、別離を含む (出所) フィデリティ退職・投資教育研究所、サラリーマン1万人アンケート(2013年4月)

図表9 退職後の楽しみなこと (単位：%)

		人数	旅行・レジャー	趣味や習い事	家族との時間を楽しむ	働き続ける	ボランティア	海外・田舎への移住	寄付	その他	特になし	
全体		11507	34.8	21.7	10.4	7.9	1.7	3.7	0.1	1.8	17.8	
未婚	男性	合計	2731	28.4	27.3	5.1	6.7	1.5	4.0	0.3	2.4	24.4
		20代	1034	29.4	29.9	7.4	5.4	1.5	3.0	0.4	1.7	21.3
		30代	849	26.4	24.4	5.5	7.9	1.8	4.1	0.1	2.7	27.1
		40代	507	29.4	25.0	1.4	7.5	1.2	4.7	0.2	3.6	27.0
		50代	341	28.7	29.9	2.6	6.5	1.5	5.3	0.3	1.8	23.5
	女性	合計	2539	33.0	23.3	8.1	7.4	1.1	3.6	0.1	1.9	21.5
		20代	883	35.3	26.2	12.6	3.3	0.8	2.7	0.1	1.5	17.6
		30代	682	34.9	23.0	7.0	6.5	0.9	4.1	-	1.3	22.3
		40代	521	29.4	18.6	5.6	10.7	1.2	4.8	-	2.3	27.4
		50代	453	29.8	23.4	4.0	13.2	1.8	3.3	0.2	2.9	21.4
既婚	男性	合計	4705	37.7	19.2	13.0	8.6	2.0	3.5	0.1	1.4	14.3
		20代	347	36.9	15.9	19.6	6.6	2.0	3.2	0.3	0.9	14.7
		30代	1210	36.9	20.1	15.0	5.9	1.8	4.1	0.1	1.3	14.7
		40代	1350	38.4	20.2	12.4	7.4	1.9	4.3	0.1	1.5	13.6
		50代	1798	37.9	18.6	10.8	11.7	2.3	2.7	-	1.6	14.4
	女性	合計	1532	40.3	17.0	15.5	8.6	1.8	4.1	0.1	2.1	10.4
		20代	196	41.8	14.3	22.4	6.6	3.1	4.1	-	0.5	7.1
		30代	445	41.8	16.4	16.9	6.3	2.5	4.3	0.2	1.3	10.3
		40代	371	37.7	18.1	16.2	9.4	0.8	3.5	-	2.2	12.1
		50代	520	40.2	17.9	11.3	10.8	1.5	4.4	-	3.3	10.6

(注)未婚には、死別、別離を含む。青い網掛けは全体の分布よりも5ポイント以上低い、赤い網掛けは5ポイント以上高いことを示す。(出所)フィデリティ退職・投資教育研究所、サラリーマン1万人アンケート(2013年4月)

図表10 退職後の心配なこと (単位：%)

		人数	定年退職後の生活費不足	親の介護	パートナーの介護	自分自身や家族の健康	社会へのつながりが希薄に	自由な時間をもてあます	何をすれば良いかわからない	その他	特になし	
全体		11507	54.2	9.4	2.6	14.9	2.7	2.3	2.5	1.1	10.3	
未婚	男性	合計	2731	51.1	8.8	1.9	12.6	3.2	2.7	3.6	1.3	14.8
		20代	1034	47.5	8.8	3.6	12.6	3.6	2.8	4.1	0.8	16.3
		30代	849	51.4	8.4	0.9	11.5	2.6	3.4	4.4	1.2	16.3
		40代	507	53.8	8.5	1.2	13.4	3.7	1.2	3.0	2.2	13.0
		50代	341	57.2	10.6	0.3	14.1	2.9	3.2	1.2	1.8	8.8
	女性	合計	2539	58.3	10.6	1.3	13.1	2.8	1.3	2.2	1.4	8.9
		20代	883	57.5	11.7	2.0	9.9	3.3	1.4	3.1	1.0	10.2
		30代	682	58.5	10.9	1.8	13.2	2.2	1.5	1.9	1.3	8.8
		40代	521	63.3	7.1	0.4	14.0	1.2	1.2	1.9	2.7	8.3
		50代	453	53.6	12.1	0.2	18.3	4.9	1.3	1.3	0.7	7.5
既婚	男性	合計	4705	55.4	8.2	2.6	15.7	2.4	2.7	2.3	0.9	9.9
		20代	347	54.2	8.9	3.2	11.5	2.0	4.0	2.3	0.3	13.5
		30代	1210	56.3	6.9	2.5	14.1	2.8	2.8	2.1	1.2	11.3
		40代	1350	58.2	7.4	3.0	15.1	1.7	1.8	2.3	0.7	9.8
		50代	1798	53.0	9.6	2.3	18.0	2.6	3.1	2.3	0.8	8.3
	女性	合計	1532	49.0	11.9	5.7	19.6	2.5	2.2	1.7	1.2	6.2
		20代	196	54.6	11.2	7.7	12.8	1.0	2.0	2.6	1.5	6.6
		30代	445	51.2	10.1	5.2	18.7	2.2	2.7	1.8	1.1	7.0
		40代	371	51.8	12.1	5.9	17.3	2.4	1.3	1.1	1.6	6.5
		50代	520	42.9	13.7	5.2	24.8	3.3	2.3	1.7	1.0	5.2

(注)未婚には、死別、別離を含む。青い網掛けは全体の分布よりも5ポイント以上低い、赤い網掛けは5ポイント以上高いことを示す。(出所)フィデリティ退職・投資教育研究所、サラリーマン1万人アンケート(2013年4月)

女性シングルズは特に老後の資金不足を懸念

退職後の楽しみなこと、心配なことを比較してみると(図表9、図表10)、その背景を考えると参考になる傾向が出ている。

まず楽しみなことでは、シングルズと既婚者では大きな違いが出ている。既婚者、特に女性は退職後の旅行・レジャーを楽しむに強い傾向が強く、シングルズは趣味や習い事を楽しむに強い傾向が強いようだ。これはシングルズが退職後も人とのつながりを持ち続けたいという意向が強く表れている結果ではないかと推察される。

一方で退職後の心配なことでは、女性シングルズで退職後の生活費不足を懸念する声が強くて注目される。女性シングルズで**58.3%**が生活費不足を心配なこととして挙げており、既婚の女性**49.0%**とは**10ポイント**近く差が出ている。

医療費の次は税金・社会保障が大きな支出項目

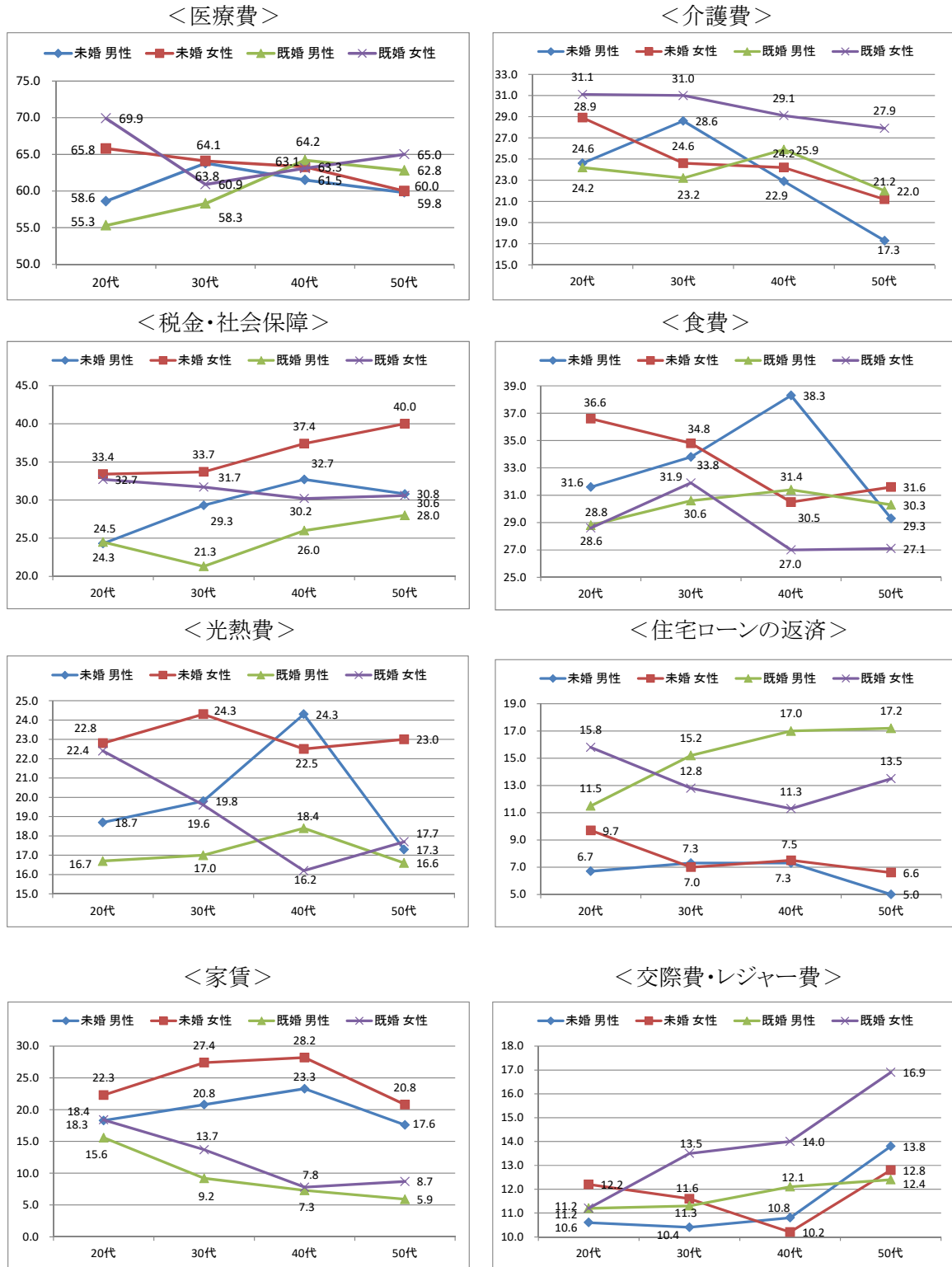
そこで退職後のどんな支出が大きいと考えているかを聞いた設問を、未婚、既婚、女性、男性毎に年代別で表示したのが図表11。

医療費が最大の支出項目であるという認識は、どのセグメントでも共通の認識で、全体平均では**62.2%**、男性シングルズで**60.9%**、女性シングルズで**63.8%**、男性既婚者で**61.5%**、女性既婚者で**64.0%**といった水準だ。シングルズと既婚者で明確にトレンドが出ているのは、住居に関する考え方の違い。これは住居を購入しているかどうかの影響しており、既婚者は住宅ローンの返済が退職後の大きな支出になるとみている一方で、シングルズは家賃を懸念している。また、シングルズは、税金・社会保障、光熱費など生活実感のある項目も大きな支出として挙げている。

介護費に関しては、既婚女性の**29.5%**が大きな支出と認識しており、他のセグメントと比較して、水準が高くなっている。

図表11 退職後の大きな支出・制約は何か(複数回答)

(単位：%)



(注)未婚には、死別、離別を含む

(出所)フィデリティ退職・投資教育研究所、サラリーマン1万人アンケート(2013年4月)

30、40代女性シングルズは退職後の生活を描けていない

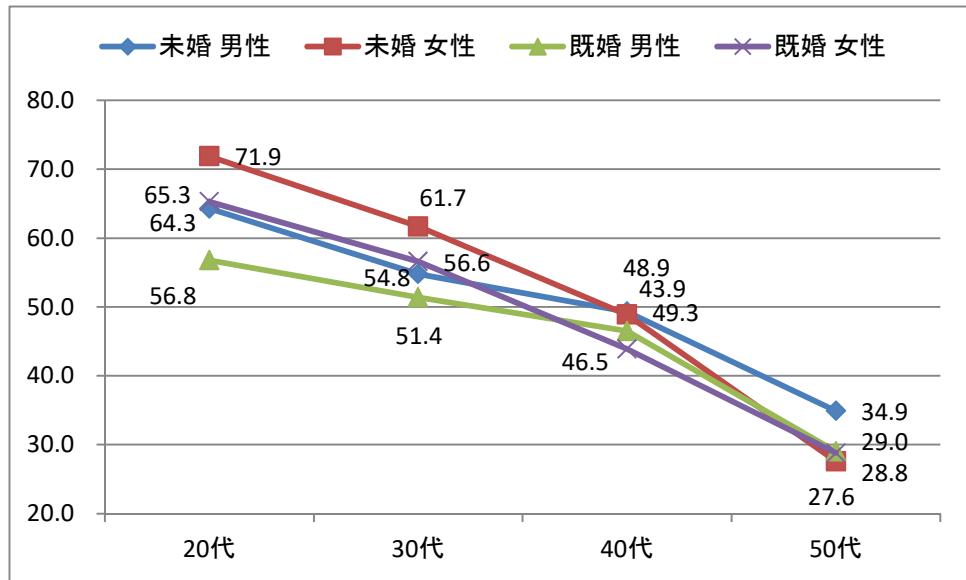
ところで若干気になる点がある。退職に伴って生活費の水準がどれくらい減少するかを聞いた結果(図表12)では、女性シングルズが総じて「わからない」と回答する比率が高くなっている。さすがに50代になるとそうした比率も下がっているが、早めに退職後の生活費レベルを想定することは、その準備を進める大きなきっかけになることから、30代、40代での理解が進むことが今後望まれるところだ。また、現在はねんきん定期便が届けられるようになっているが、それにもかかわらず、シングルズの方が年金の給付額に関する認知度が低くなっている。ここでも30代、40代の「年金給付額を知らない」という人の比率が既婚者よりも高くなっていることは共通項だ(図表13)。

図表12 退職前後の生活費水準の変化 (単位：%)

		人数	退職前の 3割未満 の水準に なると思う	退職前の 5割未満 の水準に なると思う	退職前の 7割未満 の水準に なると思う	退職前と ほとんど 変わらない と思う	退職前よ りも増える と思う	わからな い	
全体		11507	13.4	29.3	22.2	9.7	2.3	23.1	
未婚	男性	合計	2731	13.7	26.0	20.9	10.4	3.2	25.8
		20代	1034	11.9	21.5	19.8	10.7	3.6	32.5
		30代	849	13.0	27.2	21.2	9.9	2.9	25.8
		40代	507	15.6	30.4	20.3	10.7	2.8	20.3
		50代	341	18.2	30.5	24.3	10.0	3.5	13.5
	女性	合計	2539	14.8	25.0	19.0	8.4	1.9	30.8
		20代	883	12.5	23.8	17.8	7.4	1.7	36.9
		30代	682	17.0	23.8	19.6	6.0	1.8	31.8
		40代	521	16.9	25.5	17.1	7.5	2.5	30.5
		50代	453	13.5	28.9	22.7	15.2	2.0	17.7
既婚	男性	合計	4705	13.1	33.7	24.0	9.5	2.0	17.8
		20代	347	12.1	28.0	22.8	10.4	3.2	23.6
		30代	1210	13.2	29.1	23.6	10.0	2.2	21.9
		40代	1350	11.9	34.7	23.1	7.9	2.5	19.9
		50代	1798	14.1	37.2	25.1	10.1	1.3	12.2
	女性	合計	1532	11.7	29.0	24.1	11.4	2.2	21.6
		20代	196	13.3	24.5	24.0	8.2	6.1	24.0
		30代	445	11.9	28.5	20.4	12.4	1.3	25.4
		40代	371	11.9	28.8	23.2	10.8	1.6	23.7
		50代	520	11.0	31.3	27.9	12.1	1.7	16.0

(注)未婚には、死別、別離を含む。青い網掛けは全体の分布よりも5ポイント以上低い、赤い網掛けは5ポイント以上高いことを示す。(出所)フィデリティ退職・投資教育研究所、サラリーマン1万人アンケート(2013年4月)

図表13 公的年金の給付額を知らないと答えた比率(単位：%)



(注)未婚には、死別、別離を含む

(出所)フィデリティ退職・投資教育研究所、サラリーマン1万人アンケート(2013年4月)

3 退職後の生活資金の準備状況 50代女性シングルの準備遅れは深刻

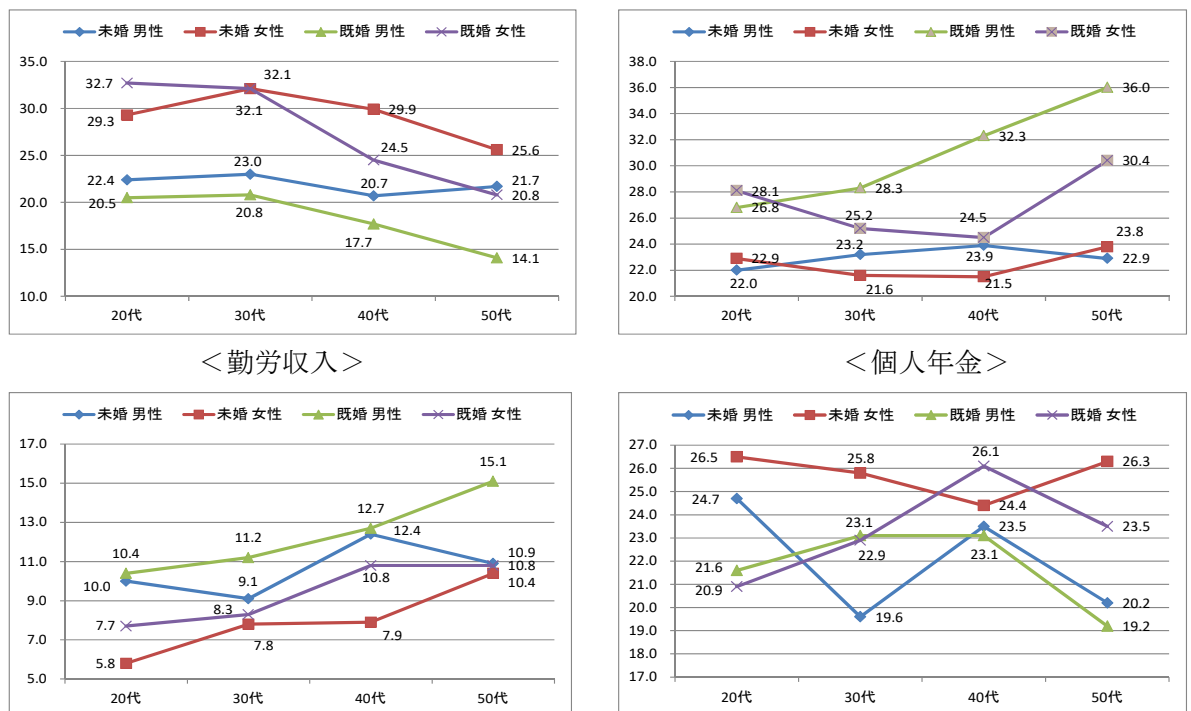
シングルの、年金以外は貯蓄の取り崩しに依存

シングルズは総じて退職後の生活を厳しくイメージしているが、その準備をどう行っているかをこの章ではまとめていく。

サラリーマン1万人アンケートでは、**85.5%**が「公的年金制度が安心できない」と回答している。これをシングルズと既婚者に分けても、それぞれ**84.0%**、**86.8%**とともに**8割以上**が不安感を感じている。

そこで、公的年金以外に頼れる退職後の収入源として何が重要なのか聞いた結果が、図表14。サラリーマン1万人アンケート全体では、公的年金以外の収入源としては、企業年金・共済(27.2%)、個人年金(22.9%)、預貯金の取り崩し(22.4%)、勤労収入(10.7%)で8割以上になる。しかし、シングルズと既婚者の特徴を比べてみると、既婚者が企業年金への依存度を高め、また退職後も働くことを想定しているのに対して、シングルズでは極端に企業年金への依存度は低く、代わって預金の取り崩しの比率が高くなる。その傾向は女性シングルズに顕著にでている。

図表14 公的年金以外の退職後の収入源は何を重要と考えるか (単位：%)
 <預貯金の取り崩し> <企業(共済)年金>



(注)未婚には、死別、別離を含む。(出所)フィデリティ退職・投資教育研究所、サラリーマン1万人アンケート(2013年4月)



既婚者もシングルズも変わらない必要額、3000万円

退職後、公的年金以外に必要な生活資金の総額に関して、シングルズと既婚者にあまり差がないことがわかった。図表15では全体平均値と5ポイント以上かい離のある場合に網掛けで表示しているが、限られた箇所にもみ色がついていていることがわかる。ちなみに、50代では、男性シングルズで3552.8万円、既婚者で3241.4万円とシングルズの方が多いくらい。女性でもシングルズは2911.7万円、既婚者は2974.0万円だ。これは従前から指摘してきたとおり、「1000万円では足りないが5000万円は用意できない」といった心理上の壁が必要総額を規定している可能性がある。ちなみに、1000-5000万円のレンジは合計すると全体の3分の2を占めている。

家族構成から考えると、既婚者は少なくとも2人分の生活費をある時期までカバーする必要があり、シングルズと比べてもう少し多く必要だという認識をもつべきではないだろうか。もちろん、シングルズにとっても3000万円ですり足りるだろうかという疑問は残る。

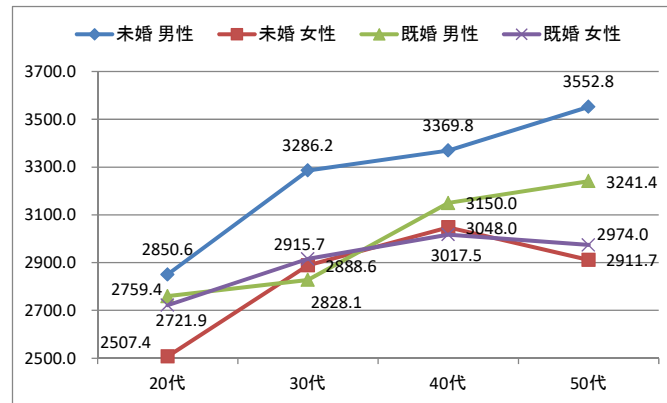
図表15 公的年金以外に必要なと考える退職後の生活資金総額 (単位：%)

		人数	必要ない (公的年金 で充分)	1000万円 未満	1000- 2000万円 未満	2000- 3000万円 未満	3000- 5000万円 未満	5000- 7000万円 未満	7000万 円-1億 円未満	1億円 以上	平均(万 円)	
全体		11507	5.1	13.8	23.8	23.1	19.1	7.3	2.7	5.0	3016.0	
未婚	男性	合計	7.2	12.7	22.8	22.2	18.2	6.9	2.7	7.3	3170.1	
		20代	10.4	12.8	24.6	21.8	17.1	5.2	1.9	6.2	2850.6	
		30代	6.5	11.8	23.6	22.4	18.0	6.5	3.2	8.1	3286.2	
		40代	4.3	12.2	21.5	24.9	18.7	7.7	2.4	8.3	3369.8	
		50代	3.2	15.8	17.9	19.1	20.8	11.7	4.1	7.3	3552.8	
	女性	合計	5.5	15.9	26.0	22.1	17.1	6.6	3.0	3.8	2792.8	
		20代	883	9.2	17.2	28.5	21.2	12.2	5.4	2.3	4.0	2507.4
		30代	682	4.8	14.4	25.7	22.3	19.4	5.7	4.5	3.2	2888.6
		40代	521	3.3	14.8	24.8	21.5	20.3	7.7	3.1	4.6	3048.0
		50代	453	1.8	17.0	23.2	24.5	19.2	8.8	2.2	3.3	2911.7
既婚	男性	合計	4.3	13.3	22.5	24.4	20.0	8.0	2.7	4.8	3073.3	
		20代	347	7.8	15.9	27.7	20.7	14.1	6.3	2.0	5.5	2759.4
		30代	1210	6.6	12.0	25.1	25.5	17.9	6.9	2.3	3.7	2828.1
		40代	1350	3.3	14.7	22.0	23.9	19.6	8.3	2.9	5.4	3150.0
		50代	1798	2.7	12.8	20.1	24.9	22.7	8.9	2.9	4.9	3241.4
	女性	合計	1532	3.7	13.6	25.7	22.1	21.7	7.0	2.5	3.7	2935.4
		20代	196	7.1	16.3	30.6	14.3	20.4	4.6	1.0	5.6	2721.9
		30代	445	3.8	11.0	25.8	23.6	24.5	5.8	2.2	3.1	2915.7
		40代	371	3.8	12.7	25.6	22.9	20.5	7.5	2.7	4.3	3017.5
		50代	520	2.3	15.4	23.7	23.1	20.8	8.7	3.1	3.1	2974.0

(注)未婚には、死別、離別を含む。青い網掛けは全体の分布よりも5ポイント以上低い、赤い網掛けは5ポイント以上高いことを示す。

(出所)フィデリティ退職・投資教育研究所、サラリーマン1万人アンケート(2013年4月)

図表16 公的年金以外に必要なと考えられる退職後の生活資金総額平均値(単位：万円)



(注)未婚には、死別、離別を含む。

(出所)フィデリティ退職・投資教育研究所、サラリーマン1万人アンケート(2013年4月)

50代で目標額に達しているのは1割弱

退職後の生活用に現在準備できている資産額を尋ねたところ、全体では627.6万円のなか、50代男性シングルズ(1202万円)、50代女性既婚者(1129.8万円)の2カテゴリーのみが平均値で1000万円を超えた。また、必要額平均3000万円を上回っているのは全体では4.3%に過ぎないが、50代では男性シングルズ12.1%、女性シングルズ5.3%、男性既婚者7.8%、女性既婚者9.4%となっている。女性シングルズの低さが目立つ。

図表17 退職後の生活資金として現在準備できている資金

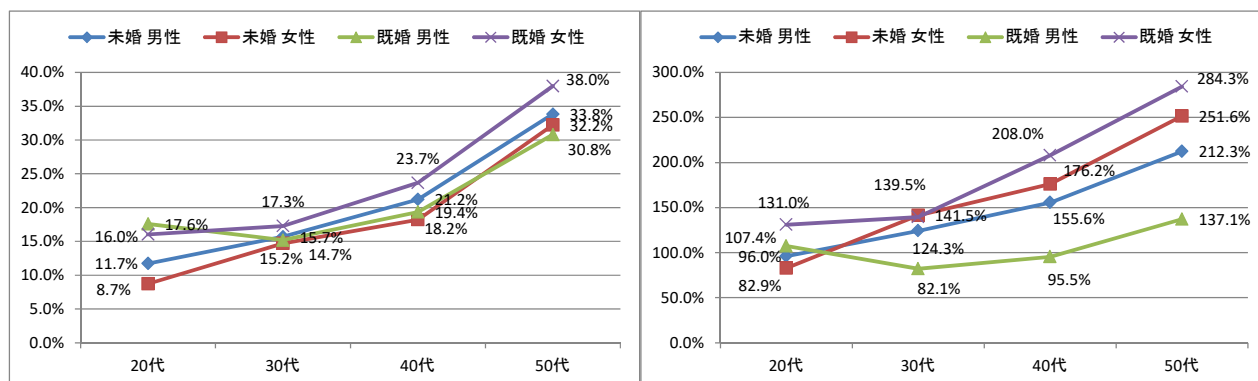
(単位：%)

		標本数	0円(まったく準備なし)	100万円未満	100-500万円未満	500-1000万円未満	1000-2000万円未満	2000-3000万円未満	3000-5000万円未満	5000万円以上	平均(万円)
全体		11507	40.3	12.3	18.4	12.4	8.3	4.0	2.2	2.1	627.6
未婚	合計	2731	43.1	13.4	18.5	10.7	7.1	3.1	2.0	2.2	569.7
	20代	1034	50.6	14.9	19.0	7.4	5.0	1.3	0.9	1.0	334.4
	30代	849	41.3	13.1	19.4	13.2	7.1	3.2	1.1	1.6	515.4
	40代	507	40.8	10.5	19.9	11.0	7.9	3.7	3.0	3.2	714.9
	50代	341	28.4	14.1	12.3	13.5	12.0	7.6	6.2	5.9	1202.4
	合計	2539	42.9	13.6	20.2	11.1	6.6	2.8	1.5	1.2	471.5
	20代	883	56.4	15.3	18.8	5.5	2.3	0.6	0.6	0.6	218.9
	30代	682	43.7	13.2	22.9	10.0	6.0	1.8	1.3	1.2	424.9
	40代	521	35.1	13.8	21.3	15.5	7.3	3.5	2.5	1.0	555.0
	50代	453	24.5	10.8	17.9	18.3	15.0	8.2	2.4	2.9	938.2
既婚	合計	4705	38.6	11.4	17.6	13.4	9.3	4.8	2.5	2.4	702.7
	20代	347	47.3	16.1	17.6	7.8	5.8	2.0	0.9	2.6	485.2
	30代	1210	47.4	13.6	16.2	11.2	6.7	3.1	0.8	1.1	429.6
	40代	1350	42.3	11.5	18.4	12.0	7.5	4.2	2.0	2.1	609.7
	50代	1798	28.1	8.8	17.9	17.0	13.2	7.1	4.4	3.5	998.2
	合計	1532	35.9	10.8	18.0	15.0	9.9	4.8	2.9	2.7	758.7
	20代	196	51.5	11.7	17.3	9.7	4.6	2.6	0.5	2.0	436.7
	30代	445	40.2	13.9	18.2	15.1	7.0	3.1	1.1	1.3	503.7
	40代	371	41.2	10.0	18.6	11.3	9.2	4.0	2.7	3.0	714.4
	50代	520	22.5	8.5	17.5	19.6	14.8	7.7	5.6	3.8	1129.8

(注)未婚には、死別、離別を含む。青い網掛けは全体の分布よりも5ポイント以上低い、赤い網掛けは5ポイント以上高いことを示す。

(出所)フィデリティ退職・投資教育研究所、サラリーマン1万人アンケート(2013年4月)

図表18 退職後の生活資金として現在準備できている資金 (単位：%)
 <必要額に対する準備率> <年収に対する準備率>



(注)未婚には、死別、離別を含む。(出所)フィデリティ退職・投資教育研究所、サラリーマン1万人アンケート(2013年4月)

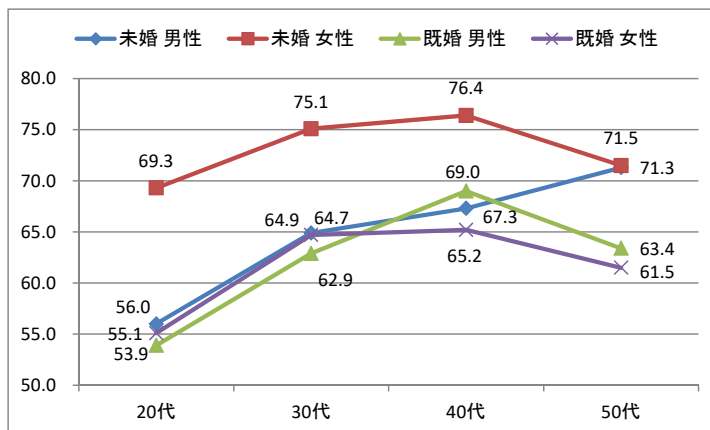
退職準備率でみると男性シングルズも課題あり

準備できている金額を必要額に対する比率と年収に対する比率で見たのが、図表18。ダブルインカムとなっている可能性が高い既婚女性の場合、必要額に対する準備率、年収に対する倍率がともに高くなっている。その一方で、男性シングルズの準備の遅れは、必要額との対比でも、年収に対する比率でも明らかだ。絶対額では相対的に大きな金額になっていても、準備率では改善が必要といえる。

女性シングルズの7割は準備できないとあきらめ

50代になっても必要額の3割程度しか準備できていないという現状から、退職後の必要額が準備できないと思う人が大半を占めている(図表19)。なかでも女性シングルズでは、20代から7割の人ができないとっており、かなり悲観度が高い。男性も50代シングルズでは、7割を超えており、相対的にシングルズの悲観度が強くなっている。

図表19 退職後の生活資産が準備できないと思う人の比率 (単位：%)

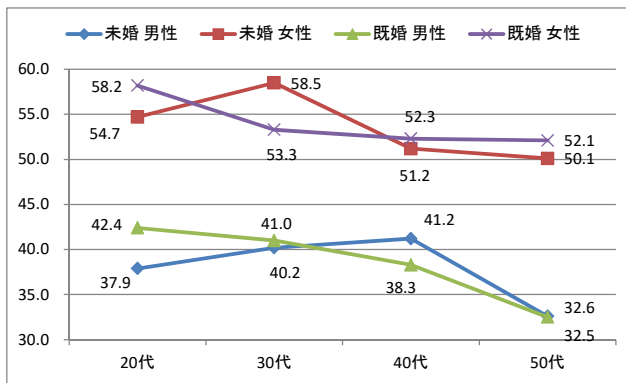


(注)未婚には、死別、離別を含む。(出所)フィデリティ退職・投資教育研究所、サラリーマン1万人アンケート(2013年4月)

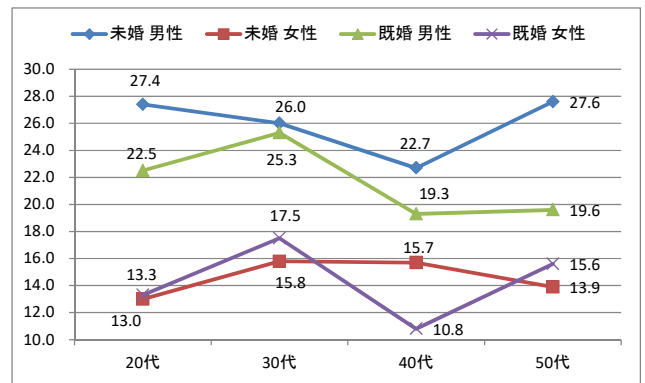
女性シングルズ、預貯金での資産形成を想定

女性シングルズがある意味で資産形成をあきらめている背景には預金金利の低下があるようだ。退職後の資産準備に何が重要かを聞いた結果では、既婚、シングルに関係なく女性はその5割超が「預貯金での蓄え」を挙げている(図表20)。現状の金利水準を前提に、預貯金での蓄えを想定しても、とても退職後の資産を積み上げることはできないだろう。一方、男性は資産運用を重要と思う人の比率が相対的に高くなっている。なかでも男性シングルズは20代以降ずっと高い比率で資産運用が退職後の資産準備に重要だと思っている。なお、既婚男性は企業年金や退職金への望みをつないでいる。

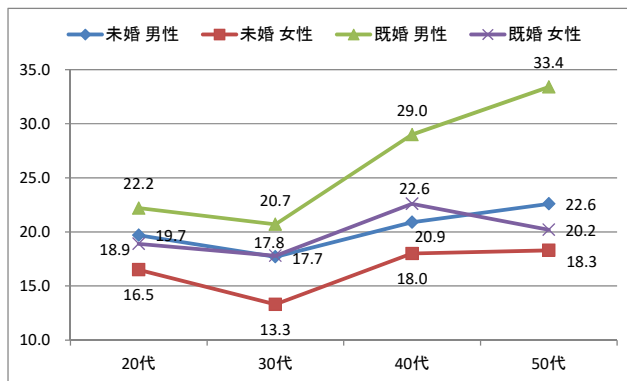
図表20 退職後の資産準備に何が重要と思う
 <預貯金での蓄え>



<資産運用>



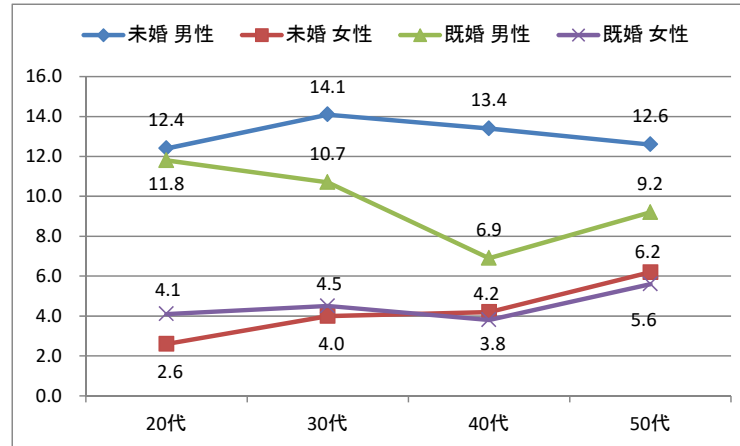
<退職金・企業年金>



(注)未婚には、死別、離別を含む。(出所) フィデリティ退職・投資教育研究所、サラリーマン1万人アンケート(2013年4月)

そのため、実際に退職後の資産形成のために資産運用を行っている比率は、男性シングルズが最も高く、女性シングルズは非常に低い水準となっている(図表21)。

図表21 退職後の資産形成のために資産運用を行っている(単位：%)



(注)未婚には、死別、離別を含む。(出所) フィデリティ退職・投資教育研究所、サラリーマン1万人アンケート(2013年4月)

4 投資の現状

退職後の資産形成以外の投資が主流

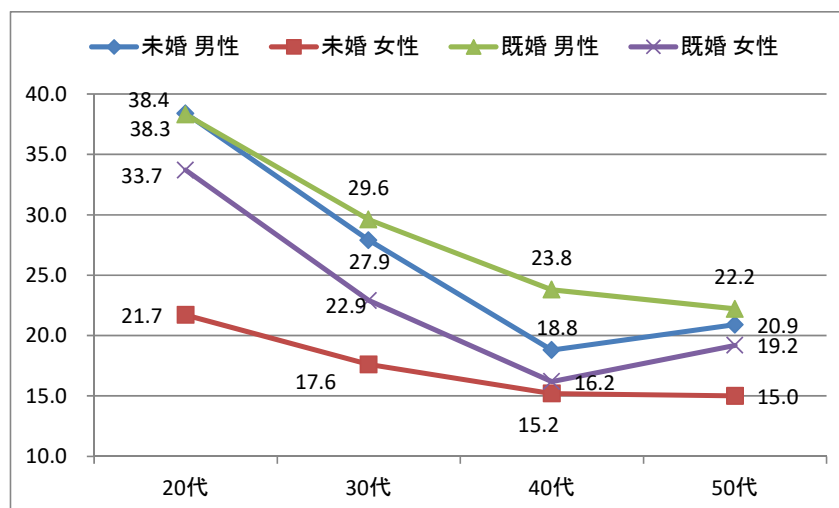
女性シングルズは投資に明るいイメージが不足

投資に対するイメージを、「前向き」、「楽しい」、「儲け」、「明るい」、「リスク」、「ギャンブル」、「損失」、「怖い」の8つの表現から選択する設問を行った。結果は(図表22)、前半4つを選らんだ人の比率は、どのセグメントでも年代とともに低下していた。

これは40代、50代がバブルのピークからの金融市場の下げ基調を体感している一方で、その後の世代(20代、30代)は下げ基調ばかりでなく、相場の上昇局面も味わっているからだろうと推測される。

50代世代では平均20.6%で、おおむね各セグメントもこの数値に収斂している。ただ、投資に対する明るいイメージを持っている若い世代ほど、女性シングルズの投資に対する「明るい」イメージが薄くなっている点が目立っている。

図表22 投資に対する「明るい」イメージの比率 (単位：%)



(注)投資のイメージとして「前向き、楽しい、儲け、明るい」の4つを挙げた比率。

未婚には、死別、離別を含む。

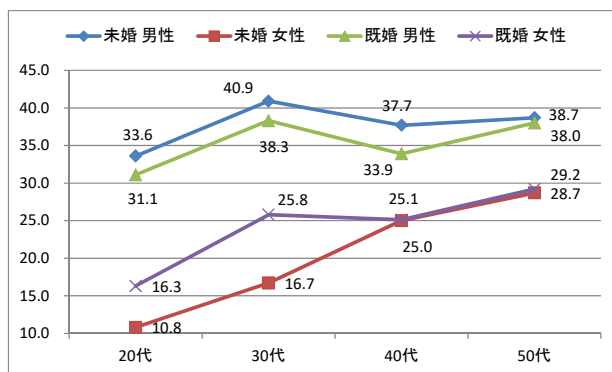
(出所) フィデリティ退職・投資教育研究所、サラリーマン1万人アンケート(2013年4月)

女性シングلز、投資の目的は老後の資産形成以外

実際に投資を行っている人をみても、女性シングلزはその比率が小さいことがわかる。図表23では、現在投資をしているかどうかを聞いているが、男性が既婚、未婚を問わず、また年代も問わず、3割台となっているのが特徴だ。一方、女性は年代に応じて投資をする比率が高くなり、40代、50代では既婚、未婚を問わずほぼ同数となっている。

ところで、図表21では退職後の資産形成のために投資を行っている比率をまとめたが、図表23とは水準が大きく違っている。すなわち、「実際に投資をしているが、それは退職後の資産形成のためではない」という人が少なからずいることを示している。実際に、図表21のデータ(退職後のために投資をしている人)を図表23のデータ(投資をしている人)で割って、「退職後の資産形成のために投資をしている人」の比率を推計したのが、図表24。全体の平均では26.6%、すなわち投資家の4人に1人だけがその目的に「老後の資産形成」を考慮しているという結果となった。セグメントで見ると、男性シングلزは総じて高い比率で退職後のことを考えていることがわかる。一方で女性の場合には、シングلزでも既婚者でも8割は老後資産以外のための投資となっている。

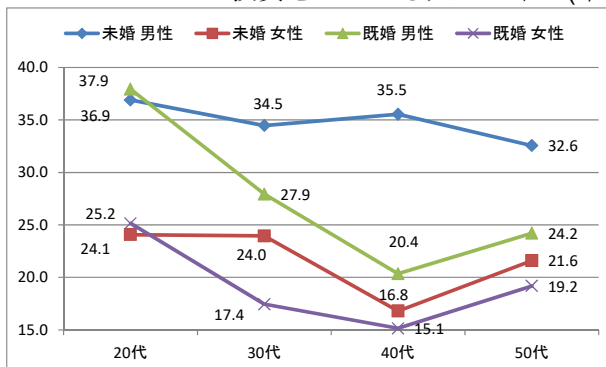
図表23 現在投資をしている人の比率(単位：%)



(注)未婚には、死別、離別を含む。

(出所) フィデリティ退職・投資教育研究所、サラリーマン1万人アンケート(2013年4月)

図表24 投資をしている人のうち、退職後の資産形成のために投資をしている人の比率 (単位：%)



(注)未婚には、死別、離別を含む。図表23のデータで図表21のデータを除して算出

(出所) フィデリティ退職・投資教育研究所、サラリーマン1万人アンケート(2013年4月)

40代、50代の女性、毎月分配型投信を保有

投資をしている3590名に現在投資を行っている投資商品を聞いた結果が図表25。全体で多くの(71.4%)投資家が保有している日本株に対して、既婚、未婚を問わず女性の保有比率が低めになっている。若い男性では、既婚、未婚を問わず外国為替証拠金取引への志向が強い。

40代、50代の女性は毎月分配型の投資信託に非常に強い興味を持っている。ちなみに、毎月分配型投資信託を保有している比率は全体では18.4%だが、40代女性シングルズで32.3%、50代女性シングルズで28.5%、50代既婚女性で30.9%となっている。

若い男性のFXとか、40代・50代女性の毎月分配型投資信託は、退職後の資産形成の手段としては似つかわしくなく、その意味では前述の「退職後の資産形成以外のための投資」に該当しているのではないだろうか。

図表25 現在保有している投資商品

(単位：%)

		人数	日本の株式	外国の株式	外貨預金	日本の債券	外国の債券	日本株に投資する投資信託	外国株に投資する投資信託	毎月分配型の投資信託	その他の投資信託	外国為替証拠金取引(FX)	不動産	変額年金	その他		
全体		3590	71.4	7.8	18.6	12.5	8.9	22.8	18.2	18.4	9.3	15.4	6.2	2.7	4.2		
未婚	男性	合計	1017	71.2	9.1	19.5	13.7	10.0	23.1	18.6	17.1	11.5	21.5	5.5	2.5	5.6	
		20代	347	66.0	10.1	20.2	13.5	9.2	19.9	13.5	14.4	8.6	26.2	4.0	1.4	6.1	
		30代	347	69.7	7.2	19.9	12.4	10.7	22.8	20.2	17.6	13.3	21.9	6.1	2.6	5.2	
		40代	191	77.0	7.3	16.8	17.3	9.9	24.1	22.5	20.9	14.7	20.9	3.7	3.7	5.8	
		50代	132	80.3	14.4	20.5	12.1	10.6	31.1	22.0	17.4	9.8	9.1	10.6	3.0	5.3	
		女性	合計	469	60.8	6.6	22.8	13.6	11.3	21.3	20.9	25.4	9.6	10.7	3.0	4.3	2.3
			20代	95	62.1	7.4	18.9	10.5	7.4	16.8	16.8	15.8	6.3	10.5	2.1	4.2	1.1
			30代	114	55.3	4.4	22.8	14.0	7.9	23.7	19.3	21.9	8.8	14.9	-	2.6	1.8
			40代	130	58.5	7.7	25.4	18.5	14.6	20.8	27.7	32.3	10.8	5.4	1.5	4.6	4.6
			50代	130	66.9	6.9	23.1	10.8	13.8	23.1	18.5	28.5	11.5	12.3	7.7	5.4	1.5
既婚	男性	合計	1712	75.8	6.8	17.3	10.5	6.9	22.5	16.9	16.3	8.5	15.2	7.7	2.6	4.1	
		20代	108	67.6	5.6	24.1	10.2	6.5	20.4	17.6	21.3	8.3	27.8	7.4	2.8	5.6	
		30代	463	68.0	6.0	17.9	10.4	5.4	21.8	15.8	17.1	9.3	20.5	5.2	1.9	3.7	
		40代	458	77.1	6.8	17.5	10.0	7.9	22.5	19.2	15.9	7.9	15.3	6.6	2.8	5.2	
		50代	683	81.4	7.5	15.8	11.0	7.3	23.4	16.1	15.2	8.3	9.5	10.2	2.8	3.5	
		女性	合計	392	65.6	9.9	16.8	16.8	11.5	24.5	19.4	22.2	6.6	6.4	5.1	2.0	2.6
			20代	32	53.1	9.4	18.8	12.5	9.4	15.6	15.6	12.5	6.3	6.3	3.1	-	-
			30代	115	60.0	7.8	14.8	16.5	8.7	17.4	15.7	15.7	5.2	7.0	1.7	0.9	4.3
			40代	93	64.5	10.8	20.4	16.1	10.8	31.2	16.1	19.4	4.3	7.5	4.3	2.2	1.1
			50代	152	73.0	11.2	15.8	18.4	14.5	27.6	25.0	30.9	9.2	5.3	8.6	3.3	2.6

(注)未婚には、死別、離別を含む。青い網掛けは全体の分布よりも5ポイント以上低い、赤い網掛けは5ポイント以上高いことを示す。

(出所)フィデリティ退職・投資教育研究所、サラリーマン1万人アンケート(2013年4月)

女性シングルズ、投資リテラシーの向上が重要

サラリーマン1万人アンケート全体では「投資をしない理由」として、「まとまった資金がない」を理由に挙げた人が39.0%、「資金が減るのが嫌だから」が35.3%、「何をすればいいかわからない」が26.2%、「いろいろ勉強しなければならないと思うから」が25.8%、となった(対象は投資をしていない7917人、複数回答)。

このうち、「何をすればいいかわからない」と「いろいろ勉強しなければならないと思うから」はやらないための理由のようなもので、投資教育として注目すべきは「まとまった資金がない」、「資金が減るのが嫌だから」という点になろう。前者は投資を始める方法としての積み立て投資を理解できれば解消する可能性が高まるし、後者はリスクを回避する方法を理解すれば低下する可能性が高いものといえる。実際、図表26でみると、「資金が減るのが嫌だから」と答えた人の長期投資や分散投資への理解が低いことがわかる。一方「まとまった資金がないから」と答えた人は時間分散への理解が低いことも指摘できる。

女性シングルズは「まとまった資金がない」ことを投資をしない理由として挙げる傾向が強く、既婚女性では「資金が減るのが嫌だ」を投資をしない理由として挙げる傾向が強い。

ところで投資の原則に関する理解度は、総じて男性よりも女性の方が低く、女性のなかではシングルズの方が相対的に低いことがわかった。一方で、男性では既婚者よりもシングルズの方が投資リテラシーが高い傾向にある。女性シングルズに対する投資教育を重視する必要があるようだ。

図表26 投資をしない理由と金融リテラシー

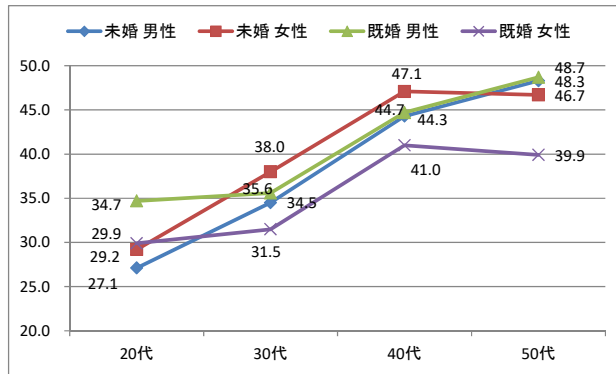
投資をしない理由	長期投資			
	有効である	有効でない	わからない	総計
資金が減るのが嫌だから	18.5%	12.7%	68.8%	2792
全体	37.0%	10.9%	52.1%	11507
	分散投資			
	有効である	有効でない	わからない	総計
資金が減るのが嫌だから	22.9%	10.6%	66.5%	2792
全体	40.9%	8.8%	50.4%	11507
	時間分散			
	有効である	有効でない	わからない	総計
投資するだけのまとまった資金が無いから	15.2%	8.8%	76.0%	3086
全体	23.7%	12.4%	63.9%	11507

(出所) フィデリティ退職・投資教育研究所、サラリーマン1万人アンケート(2013年4月)

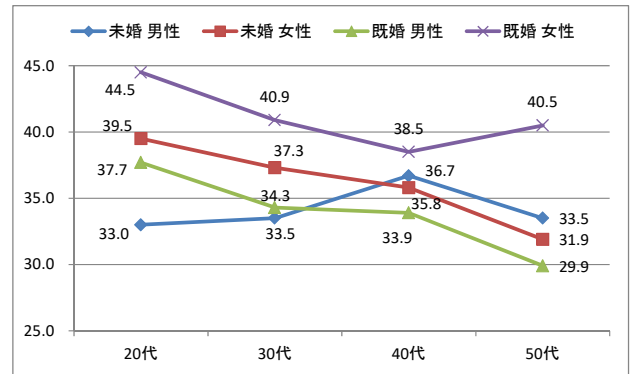
図表27 投資をしない理由

(単位：%)

<まとまった資金がない>



<資金が減るのが嫌だ>

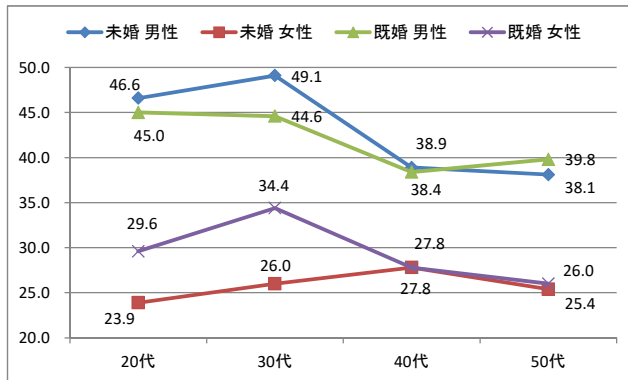


(注)未婚には、死別、離別を含む。(出所) フィデリティ退職・投資教育研究所、サラリーマン1万人アンケート(2013年4月)

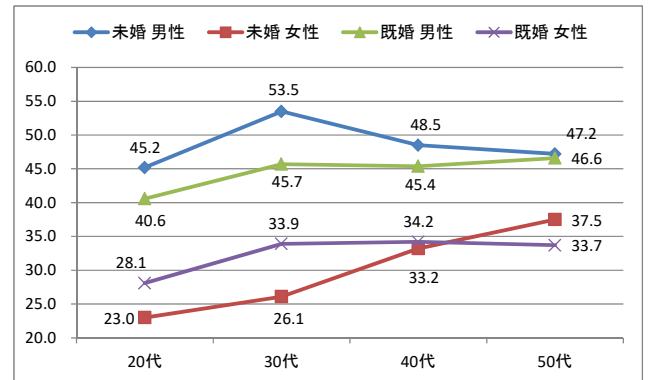
図表28 投資の原則は有効か

(単位：%)

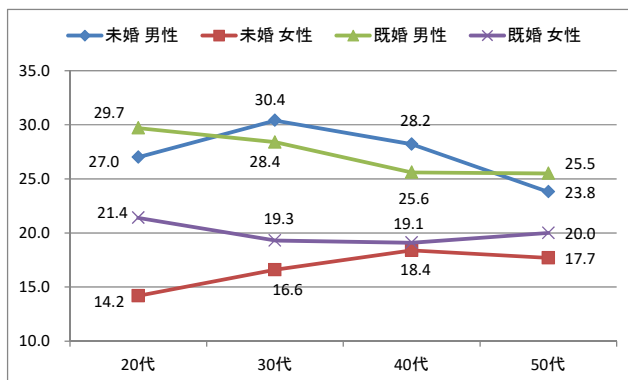
<長期投資は有効>



<資産分散は有効>



<時間分散は有効>



(注)未婚には、死別、離別を含む。(出所) フィデリティ退職・投資教育研究所、サラリーマン1万人アンケート(2013年4月)

重要方法

- ・当資料は、信頼できる情報をもとにフィデリティ投信が作成しておりますが、正確性・完全性について当社が責任を負うものではありません。
- ・当資料に記載の情報は、作成時点のものであり、市場の環境やその他の状況によって予告なく変更することがあります。また、いずれも将来の傾向、数値、運用結果等を保証もしくは示唆するものではありません。
- ・当資料に記載されている個別の銘柄・企業名については、あくまでも参考として申し述べたものであり、その銘柄又は企業の株式等の売買を推奨するものではありません。
- ・当資料にかかわる一切の権利は引用部分を除き当社に属し、いかなる目的であれ当資料の一部又は全部の無断での使用・複製は固くお断りいたします。
- ・投資信託のお申し込みに関しては、下記の点をご理解いただき、投資の判断はお客様自身の責任においてなさいますようお願い申し上げます。なお、当社は投資信託の販売について投資家の方の契約の相手方とはなりません。
- ・投資信託は、預金または保険契約でないため、預金保険および保険契約者保護機構の保護の対象にはなりません。
- ・販売会社が登録金融機関の場合、証券会社と異なり、投資者保護基金に加入しておりません。
- ・投資信託は、金融機関の預貯金と異なり、元本および利息の保証はありません。
- ・投資信託は、国内外の株式や公社債等の値動きのある証券を投資対象とし投資元本が保証されていないため、当該資産の市場における取引価格の変動や為替の変動等により投資一単位当たりの価値が変動します。従ってお客様のご投資された金額を下回ることもあります。又、投資信託は、個別の投資信託毎に投資対象資産の種類や投資制限、取引市場、投資対象国等が異なることから、リスクの内容や性質が異なりますので、ご投資に当たっては目論見書や契約締結前交付書面を良くご覧下さい。
- ・投資信託説明書（目論見書）については、販売会社またはフィデリティ投信までお問い合わせください。なお、販売会社につきましては以下のホームページ(<https://www.fidelity.co.jp/>)をご参照ください。
- ・ご投資頂くお客様には以下の費用をご負担いただきます。
 - ・ 申込時に直接ご負担いただく費用：申込手数料 上限 4.4%（消費税等相当額抜き4.0%）
 - ・ 換金時に直接ご負担いただく費用：信託財産留保金 上限 1%
 - ・ 投資信託の保有期間中に間接的にご負担いただく費用：信託報酬 上限 年率2.123%（消費税等相当額抜き1.93%）
 - ・ その他費用：上記以外に保有期間等に応じてご負担頂く費用があります。目論見書、契約締結前交付書面等でご確認ください。
- ・ ※当該手数料・費用等の上限額および合計額については、お申込み金額や保有期間等に応じて異なりますので、表示することができません。ファンドに係る費用・税金の詳細については、各ファンドの投資信託説明書（目論見書）をご覧ください。
- ・ ご注意）上記に記載しているリスクや費用項目につきましては、一般的な投資信託を想定しております。
- ・ 費用の料率につきましては、フィデリティ投信が運用するすべての公募投資信託のうち、徴収する夫々の費用における最高の料率を記載しておりますが、当資料作成以降において変更となる場合があります。投資信託に係るリスクや費用は、夫々の投資信託により異なりますので、ご投資をされる際には、事前に良く目論見書や契約締結前交付書面をご覧下さい。

(2019年10月1日現在)

フィデリティ投信株式会社 金融商品取引業者
 登録番号： 関東財務局長（金商）第388号
 加入協会： 一般社団法人投資信託協会、一般社団法人日本投資顧問業協会

MK130816-1